



明石市コミュニティ・スクールだより  
人をつなぎ 未来をつなぐ 明石のコミュニティ・スクール

## コミコミスクスク

KOMIKOMISUKUSUKU

明石市教育委員会事務局学校教育課

### 学校運営協議会の様子がとどきました

コミュニティ・スクールへの取組、ありがとうございます。各学校運営協議会の情報を交流しながら、コミュニティ・スクールづくりへの参考にさせていただけたらと思います。

#### 大久保小から

大久保小から12月4日に行われた大久保小第2回学校運営協議会の報告が届きましたので紹介させていただきます。



報告の中からここから発展したら面白いなといったことを考えてみました。

今回大久保小学校では学校運営協議会の委員の皆さんに研究授業を参観していただいたようです。地域の方や保護者の方には、オープンスクールで授業を参観していただく機会があります。「社会に開かれた教育課程」を考えた時、研究授業も開くことはできないかなということ。まず、学校運営協議会委員の皆さんにも当事者として、研究授業を参観していただき、事後研究会

にも参加していただき議論の輪に入っていくことができないかなと思っています。研究の方向性をいろいろな立場と一緒に議論することが、まさに“よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な資質・能力を育む「社会に開かれた教育課程」の実現”につながるのではと考えます。少し視点を変えて考えてみると、地域に根差した持続可能な研究スタイルが出来上がっていくように思います。

また、特別教室のエアコン設置やエレベーター設置もその施設をどのように活用していくかを学校運営協議会で考えてみるというのも学校運営協議会のテーマに十分なると思います。空調の整った教室やバリアフリーの環境はまず一体だれのためのものかあたりから考えてみると、生涯学習の拠点としての学校の役割が見えてくるように思います。

こうしたことをまず校内で考えていくことが、学校のコミュニティ・スクールへのアプローチだと思います。まず、教職員も、保護者も、地域の方もコミュニティ・スクールのイメージを持つことが今の段階では必要なのではと考えます。コミュニティ・スクールをつくるのがゴールではなく、コミュニティ・スクールを通してどのようなゴールをめざしていくのか、学校・保護者・地域の三者でめざすゴールをはっきりさせ、そのゴールを共有することが大切だと考えます。

#### 錦が丘小から

12月13日（金）に行われた、錦が丘小第3回学校運営協議会の様子が届きましたので紹介させていただきます。

前回9月に実施した学校運営協議会では、本校区として、何ができるかなということの話をされ、今回は、少し具体的に話をしましょうということで進められたようです。

12月8日(日)にまち協さんの主催で餅つきやしめ縄づくりが行われ、その時の様子から『多世代が集まって何かすることが、双方にとって何らかの学びがあるのでは』という話から始められました。

ただ、新たなものを付け加えるのは、学校も含めどの団体にとっても、荷ばかり重くて楽しくなくなってしまふのではという思いを共有しながら、「ではどうするかな」となりました。話を進める中でまず普通の学校の教育課程内で実施している活動に、地域の人にも参加していただき、一緒に活動してもらったり教えていただいたりするところから始めてはという話になったようです。話を進める中で、「書写の時間に大人も一緒に習字を楽しんでもらってはどうか」、「まち探検の案内人を地域の人にしていただいて、じっくりまちを探検するのも自分たちのまちを知り考えることにつながるのでは」、「地域のお寺で木魚体験なんかも面白いかも」、「図工で写生をするときに、地域の人と一緒に絵を描いてもらう機会をつくっては」、「屋上からの探検を地域の人にも呼びかけてみては」、「オープンスクールは1日開催ですが、ちょこっと授業を見に行く、“オープンタイム”のようなものがあったら面白いね」といろいろな案がでてきました。ただ、危機管理・安全面の確保という点にも気をつけて、参加申し込み等を取って参加していただくようにしてはといったことで今回の話は終わり、3月の本年度最終回をもって、次年度からの活動の具体をより鮮明にしようということで散会されたようです。

錦が丘学校運営協議会のテーマは、「楽しく負担なく」で、やらされ感ではなく、やりがい感につながっていく大切なことだと考えます。「できる人が、できることを、できることから、」といったスタンスでやり始めていくことがウィンウィンの関係をつくり、学校と保護者と地域のつながりを深めていくのではと考えます。こうした学校運営協議会での話を校内でも共有しながら、「社会に開かれた教育課程」の話をすすめていくことがコミュニティ・スクールづくりを進めるうえで学校としての役割ではと考えます。

## 松が丘小から

12月10日(火)に第3回目の学校運営協議会が開かれ、オブザーバーとして参加させていただきましたのでご紹介させていただきます。

校長先生から2学期の様子の写真等を交えながら説明される中で、自然と12月5日に開かれた松が丘サミットの話になり、子どもたちの提案をいかに実現していくかの話になりました。高齢者を支援する活動では、「高齢者宅のゴミ出しなどいきなりには難しいが、登校途中にゴミ出しをしている高齢の方を見かけたらゴミをゴミステーションまで持って行ってあげるといったことから始め、信頼関係をつくっていくことが大切だ」とか、自治会の行事の運営では、「若い世帯が家族ぐるみで参加するなど、参加者が増えている自治会もあり、子どもたちが行事の計画段階から参加してもらえるとありがたい」といった話など具体的な話で盛り上がりました。また“ふれあいルームの活用”では茶道教室の話があり、2月に開かれる“楽学交祭”で体験コーナーを設けられたらいいなといった話になっていきました。こうした具体的な話ができるのも、松が丘サミットが人をつなげていく仕組みとしてのコミュニティ・スクールのイメージを持っていただける場になったのではと思います。



松が丘サミットで子どもたちが提案した活動の中で、早速「高齢者施設への訪問」「ゴミ拾い」「松が丘ガーデンの花植え」などが12月18日からスタートしました。活動する中で考えなければならないことが出てくると思います。その都度関係者が集まり、話し合うことでつながりが広がり、地域に根差したプログラムになっていくのではと思っています。

## “学校運営協議会情報” 募集

各学校運営協議会の情報をもっと交流ができればと思っています。運営協議会の様子や話し合われた内容など送っていただけたらと思います。よろしくお願いします。